

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介するコーナーがステイ・スマイル(笑顔のままで)です。

Stay Smile

ステイ・スマイル

Stay Smile 高原のアーティストを訪ねて

東に八ヶ岳、西に入笠山を仰ぎ見る、さわやかな高原の町、富士見。この地に生まれ、または惹かれて制作する、素敵なアーティストたちを紹介します。

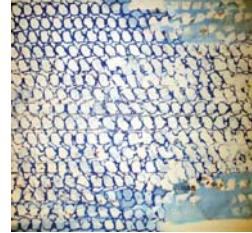
【今月のアーティスト】 塚田 裕 (つかだ ひろし) さん 画家・富士見町在住

塚田裕さんは、1966年、長野県に生まれ、1989年に和光大学人文学部芸術学科油彩専攻を卒業。現在、富士見町の信濃境にアトリエを構え、日々制作しています。作品は、アクリル絵の具による抽象画が主体で、中には縦横2mを超すような大作もあります。塚田さんは、日常で感じるささいなこと、自然の変化や季節の移ろいを心象として、素直に画面にうつすよう心がけています。また、常に“造形意識”を持ち、画面を構成することを大切にしています。塚田さんは、自然豊かな富士見町での暮らしは、四季の変化を身近に感じることができ、ゆったりとした時の流れの中に身を置ける、と語ります。

塚田さんの作品には、こうした自然の環境や様々な季節に根差した色や線による「かたち」を感じます。塚田さんは、1989年から2004年までの新制作協会での出品をはじめ、銀座みゆき画廊や画廊るたん、茅野市民館、松本市美術館市民ギャラリーなどで個展を開催し、作品を発表してきました。また、オーストリアのシュライニング国際音楽祭では、招待作家として、2005年、2007年、2011年の3回にわたり個展を開催しました。近年では、やはり招待作家として、山中湖国際音楽祭で、2008年から毎年個展を開催し、今年2014年も8月29日(金)～31日(日)にかけて作品を展示しました。真摯に画面と向き合い、表現の新境地を開いていく塚田さん。彼は今日も、自らの五感と心で捉えた森羅万象を絵に形作っています。

[Information]

塚田さんの連絡先：☎0266-64-2425



▲sky cloud
アクリル画 2013年



▲落ちてくる花の雪のよう
アクリル画 2014年



▲塚田さんと作品
© 塚田裕

文：前島孝一（小海町高原美術館館長・清里フォトアートミュージアム職員）富士見町富士見在住
facebook <https://ja-jp.facebook.com/koichi.maeshima.1>

Stay Smile 歌声の向こうには確かな明日がある

富士見中学校 合唱部



▲NHKコンクールの地区大会

私たち合唱部は、「SMILE」という目標のもと、女子16名、男子1名の計17名で活動しています。主な活動として、NHK全国音楽コンクールやSBCこども音楽コンクール、重唱大会、白鈴祭での部活動発表に向けた練習をしています。他の部活に比べて人数が少ない分、思ったことを言い合い、学年関係なく仲が良く、笑いが絶えない部活です。

先日行われたNHKコンクールの地区大会は、3年生の男子4名にサポートに入ってもらい、総勢21名で参加してきました。様々な方からご指導いただき精一杯練習してきました。目標としていた金賞をとることはできませんでしたが、一人ひとりが今まで支えてくださった全ての方々に感謝の気持ちをもって、力ノラホールのステージで堂々と歌つくることができました。こんな合唱部ですが、今年で部員の半数以上

をしめる3年生が引退します。部員全員でステージに上るのは、白鈴祭が最後になります。今年も30分の時間をいただき、洋楽、J-POPなど皆さん知っている曲を歌う予定です。さらに富士見中合唱部史上初の試みも計画中です。自分たちだけでなく、聞いてくださる方も一緒に楽しめる発表にしたいと思っています。ぜひお越しください。（文化部の発表は白鈴祭2日目の9月20日(土)です）

(合唱部部長 平出みなみ)



▲昨年度の白鈴祭ステージ発表

Stay Smile 40分で助かる命がある

日本赤十字社 ~献血事業のご案内~

2004年、10代、20代の献血者数は約188万人でした。それから10年後の2013年になると、10代、20代の献血者数は約127万人と、この10年間で32%も減少してしまいました。



日本赤十字社

少子化が進み、10代、20代の人口が減る一方で、輸血を必要とする高齢者の割合はますます増え、毎日平均で約3,000人の人が、病気などで輸血を受けています。また、血液は人工的につくることも、長い間保存することもできません。そのため、絶やすことなく常に、血液を安定的に確保する必要があります。

実際、献血にかかる時間は受付から採血後の休憩まで入れて400ml献血で15～40分。針をさしている時間は平均で5分から15分です。40分で助かる命があります。献血へのご協力をお願いします。

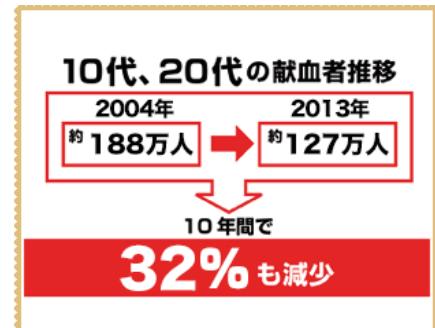
※献血は、移動献血車と血液センターで受け付けています。

【富士見町で行われる移動採血車献血】

期 日	時 間	場 所
平成26年10月28日(火)	午後1時30分～午後3時30分	富士見高原病院
平成27年3月17日(火)	午後2時～午後4時	富士見町役場

問 赤十字血液センター諏訪出張所 ☎53-7211(予約専用:0120-12-7212)

【定休日】毎週 月・水・金・日 曜日と8月15日・12月31日・1月1日



Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ~子どもの領分を守るために~

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

「考える」ということ

先日、野外保育森のいえ“ぼっち”の年長組の子どもたちと「仲間」について考える時間を持ちました。遊びの中でのある子どもたちの「貸して」「仲間じゃないから貸してあげない」という会話を聞いて、子どもたちの使う「仲間」の意味と、大人の思う「仲間」の意味に微妙な違いがあるように感じたことがきっかけです。

～「仲間」って何？ 考えてみよう～

大人が子どもたちに「仲間」の意味を教えるためではなく、子どもたちが自分の体験に思いを馳せながら「仲間」について自分で考え、自分なりの答えをさがし言葉にして伝える時間です。子どもたちはそれぞれに考え、言葉にして友達や保育者に伝えてくれました。「一緒に同じ遊びをするのが仲間だよ」「一緒にあそばない子たちも仲間だよ」「あまり一緒にあそばない子もいるけど、その子も仲間だよ」「けんかしたりするけど、ぼっちはみんなが好きだよ」「年少の時、仲間はずれにされて悲しかったよ」「ぼっちはみんなが仲間だよ」



ここでは誰の考えが正しいと決めるのではなく、子どもたちが今まで生きてきた経験をもとに、頭と心を使って一生懸命考えること、そしてその考えを言葉にして伝えること、人の考えを聞いてさらに自分の考えを深めることに意味があると考えています。

小学校以上になると学校でこのような時間は用意されていますが、幼稚であっても体験の中から考えを深める力を持っていて、大人がそのことを意識しながら子どもたちを刺激することで、子どもの考える力はますます育つのだと思います。